

# 平成 30 年度 学校関係者評価報告書

学校法人湘中央学園  
浦添看護学校  
学校関係者評価委員会

学校法人湘中央学園浦添看護学校学校関係者評価委員会は「平成 30 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて保護者、卒業生、業界関係者評価を実施しましたので、下記の通り報告します。

## 1. 教育理念・目的・育成人材像

○学校法人湘中央学園の建学の精神に則り、看護師養成所としての教育理念・教育目的・目標を設定している。キーワードである「愛」「智」「技」は看護職者が備えるべき要素を端的に表しており、教職員は学生指導や教育実践活動に活かされている。

今後、AI 時代を迎える中で臨床現場が求める人材も変化してくると思われることから、キーワードの「愛」を具体化した人材育成も重要になる。来るカリキュラム改正に明確に打ち出せることを期待する。

## 2. 学校運営

○学校経営に関しては、法人本部から示された「長期目標」「中期目標」「短期目標」を踏まえ、看護学校としての事業計画を策定し、職員会議及び教務会等で共通理解し、教職員各々の業務目標に活かされている。教職員が一体となって組織された 9 つの委員会活動は年々充実しつつあるように思う。

時に社会的問題にまで発展する SNS に関することにも学校として敏感に反応し、学生と一緒に「ソーシャルメディア利用ガイドライン」を作成する等の対策を講じたことは評価する。その他、学生への支援体制(キャリア支援委員の設置)も充実してきている。

## 3. 教育活動

○学内委員会として教育委員会が設置され、毎年度のカリキュラムの振り返りと次年度に向けての検討が行われている。

学校として様々な教育内容を正課として、あるいは正課外にプログラムし、教育理念や教育目的・目標の達成に努力している。今後、カリキュラム改正の動きもあることから、超高齢社会に対応できる看護職者の育成に力を入れることが望まれる。さらに充実したカリキュラムの構築を期待する。

看護教育は社会の変化に応じて常に深化させていくことが必要であることを踏まえると、現に行っている授業の学生による評価は必要である。臨地実習や専門領域の看護学に

ついてはしっかりなされており、その継続・維持を願いたい。基礎分野及び専門基礎分野に関する授業評価は課題が多く完全実施に困難性があることは理解できた。

#### 4. 学修成果

○進学、就職については学生からの申し出により随時キャリア支援委員会で対応ができて  
いる。就職内定状況も例年通りほぼ全学生が3月末時点で就職先を決めている。

助産学科への進学は3名である。国家試験の合格率は98.4%で全国平均の89.3%を  
上回っていることは、120名の学生へのかかわりの濃密さがうかがえる。称賛に値すると考  
える。今後もそのかかわり方を継続してほしい。

卒後のキャリア形成の一環で実施している「浦看カフェ」は毎回、趣向を凝らしており、  
卒業生からの評価も好意的である。卒業生にとって年2回実施することは勤務の都合で  
どちらか一方に参加することが可能となり効果的であると考ええる。

最近、とみに増えてきているのが学生のメンタルサポートであると聞いている。

当校は、それに対する対応としてカウンセラーを二人制にしたのは、課題を抱えた学生  
対応の柔軟性が確保できたのではないかと考える。

#### 5. 学生支援・学生指導

○学生の経済的支援体制は、事務部に担当者が置かれ随時対応がなされている。

学生の健康管理、課外活動、生活環境への支援についても学内委員会活動の一環で  
なされている。キャリア教育や職業教育については、看護師養成所であることを踏まえ、  
教科の中で行ったり、特別講義等で実施されている。学生の看護学への学習意欲を高め  
るためにも充実したキャリア教育・職業教育がカリキュラムの中に位置づけられて実施され  
ることを期待する。

#### 6. 教育環境・法令遵守

○教育環境については、ハード面、ソフト面共に年々充実してきている。近年、防災に  
対する意識が高まっていく中で学内に防災対策検討委員会が設置されたことは評価す  
る。

○法令遵守に関しては、これまでと同様、専修学校としては「専修学校設置基準」、看護  
師養成所としては「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」を踏まえている。

今年度は沖縄県より「看護師等養成所指導調査」を受けられた。改善計画を提出しなけ  
ればならないほどの大きな指摘事項がなかったことは、日頃からの業務への取り組み姿勢  
が評価されたと思う。今後も頑張っていたきたい。

#### 7. 学生受け入れ募集・社会貢献・地域貢献・特別活動等

○学生の受け入れ募集に関することで現在行っているオープンキャンパス、県内高校へ

のパンフレット配布及び進路指導担当教諭への情報提供、学校のホームページを通しての活動は継続していただきたい。しかし、看護学校の魅力を発信する新たな取り組みも検討する必要があると思う。

○社会貢献・地域貢献としてのボランティア活動の推進は、学生にとって正課で学ぶ以上の学びがあると思う。地域からのボランティア募集が年々増えてきている中で、それを取り扱う専任の職員が配置できない現状で教職員が頑張っていることは評価したい。

#### 8. 国際交流

○看護師養成所における留学生の受け入れは、法的な縛りがあり、現状は厳しいと思われる。しかし、国が推し進めている外国人の異動に関する政策は、医療の現場にもあることから、視点を変えた取り組みが必要と思われる。

現在、学校で取り組んでいる、近隣の国際交流機関を活用しての教育活動はそれに値すると思われることから今後も継続していただきたい。

以上